

横浜市インフルエンザ流行情報 6号

横浜市健康福祉局健康安全課
横浜市衛生研究所

- 第 5 週(1 月 26 日～2 月 1 日)は、医療機関あたり報告数 41.77 と、前週に比べ減少しましたが、依然として警報レベルの流行となっています。
- 学校等における集団かぜは 2009 年 1 月 31 日までに施設閉鎖 9 施設(9 施設)、学年閉鎖 12 施設(13 学年)、学級閉鎖 67 施設(90 学級)の報告がありました。
- 今シーズンに入り、病原体定点医療機関の検体からインフルエンザウイルスが 99 株分離・検出され、その内訳は、AH1(ソ連型)55 株、AH3(香港型)32 株、B 型 12 株で、AH1(ソ連型)が半数強を占めています。
 - AH1(ソ連型)20 株すべてからオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性遺伝子が検出されましたが、ザナミビル(商品名:リレンザ)に対する耐性は確認されていません。
 - 集団かぜの検体からインフルエンザウイルスが 32 株分離・検出され、その内訳は、AH1(ソ連型)24 株、AH3(香港型)2 株、B 型 6 株で、AH1(ソ連型)が最も多くなっています。

1 今シーズンの感染症発生動向調査におけるインフルエンザの患者発生状況

(1) 患者定点医療機関からの患者報告状況

図1 横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数

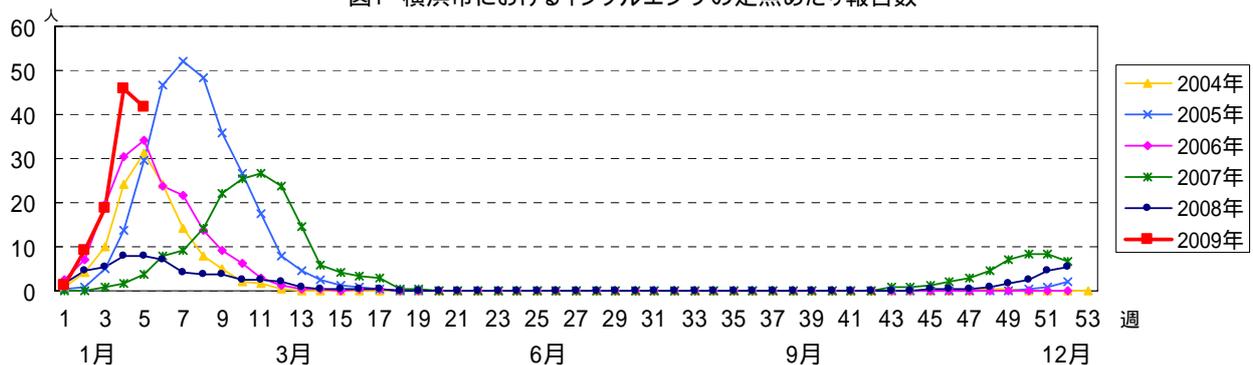


図2 第5週 区別定点あたり報告数

横浜市では、過去 6 年間で最も早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週(12/1～7)に流行の目やすとなる「1.0」を超え、2009 年第 3 週(1/12～18)横浜市全域が注意報レベルの流行となり、第 4 週(1/19～25)にはさらに増加し、警報レベルの流行となりました。第 5 週(1 月 26 日～2 月 1 日)の定点あたり報告数は 41.77(前週の 0.9 倍)と減少しましたが、依然として警報レベルの流行となっています(図1)。

区別では、泉(68.00)、瀬谷(65.00)、港南(51.75)、神奈川(49.75)、港北(48.10)の順で多く、鶴見、西、中以外の 15 区で警報レベルの流行となっています(図 2)。

また、横浜市内の患者定点医療機関のご協力でご報告いただいた迅速診断用検査キットによる型別の判定(患者発生報告書に記載結果を記載いただいたものについての集計)をグラフに示しました。2009 年第 5 週では、A 型 4362 件、B 型 489 件、A B 型共に陽性 11 件の報告がありました(図 3)。

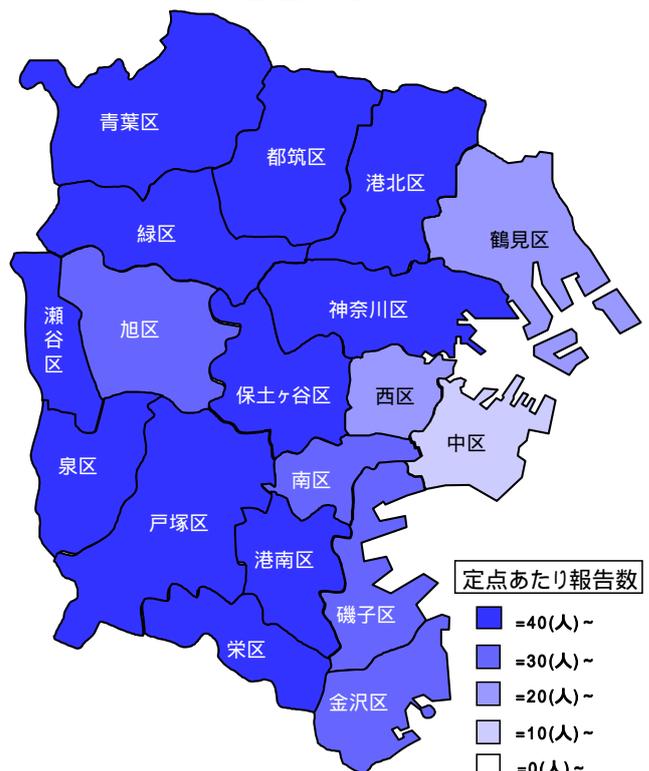
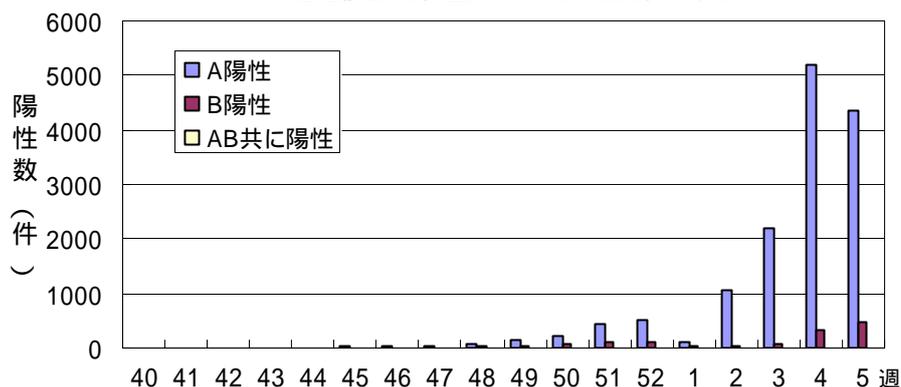


図3 横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



全国でも、インフルエンザ報告数は第2週に注意報レベルの流行となり、第4週には、大幅に増加し、警報レベルの流行となりました。第5週は定点あたり報告数 35.62とやや減少しましたが、依然として警報レベルの流行となっています(表1)。

都道府県別では沖縄県(67.9)、香川県(56.0)、宮崎県(52.6)、長崎県(48.2)、長野県(47.1)、兵庫県(46.0)、大分県(45.5)、神奈川県(45.5)、新潟県(43.7)、静岡県

(42.8)の順となっており、36都府県で警報レベルの流行となっています。

表1 インフルエンザ定点あたり報告数の推移

定点あたり患者報告数	第1週 (12/29-1/4)	第2週 (1/5-1/11)	第3週 (1/12-1/18)	第4週 (1/19-1/25)	第5週 (1/26-2/1)
全国	5.44	12.00	20.88	37.47	35.62
東京都	2.14	10.00	16.56	31.94	30.01
神奈川県(全県)	1.99	10.62	20.84	47.08	45.45
横浜市	1.23	9.09	18.74	45.98	41.77
川崎市	1.62	9.32	19.89	39.60	41.60
県域(横浜・川崎を除く)	2.88	12.64	23.33	50.96	50.53

(2) 今シーズンの学校等における集団かぜについて

市内の幼稚園、学校等からの集団かぜ等は、過去4シーズンと比べて、最も早く2008年10月20日に初発の報告がありました。2009年1月19日以降急激に増えて、1月31日までに施設閉鎖9施設(9施設)、学年閉鎖12施設(13学年)、学級閉鎖67施設(90学級)の報告がありました(表2)。

区別では、栄区以外の17区から報告があり、青葉(11施設)、旭(10施設)、都筑(9施設)、緑(7施設)、泉(7施設)、鶴見(6施設)、神奈川(6施設)、保土ヶ谷(6施設)、磯子(6施設)、港南(4施設)、金沢(4施設)、港北(4施設)、中(2施設)、瀬谷(2施設)、西(1施設)、南(1施設)、戸塚(1施設)でした。(施設数は延べ数です。)

表2 集団かぜ等による施設閉鎖

区分	閉鎖施設数			閉鎖延べ			閉鎖対象者		
	施設	学年	学級	施設	学年	学級	在籍者	患者	欠席者
幼稚園	7	1	20	7	1	30	2145	756	730
小学校	0	6	38	0	7	51	2412	1126	811
中学校	1	4	8	1	4	8	1373	333	236
高等学校	1	1	1	1	1	1	661	173	166
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	9	12	67	9	13	90	6591	2388	1943

全国の状況については、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html> をご覧ください。

横浜市内の最新の流行情報については、

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html> をご覧ください。

インフルエンザ定点

インフルエンザの流行状況を把握するために、横浜市内では小児科定点88か所を含む145か所(全国約5000か所)の医療機関を「インフルエンザ定点」と指定しています。

2 今シーズンの病原体定点等の検体からのインフルエンザウイルス分離・検出状況について

2008 年第 47 週以降の病原体定点の検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて 99 件あり、その内訳は AH1(ソ連型)55 件(55%)、AH3(香港型)32 件(32%)、B 型 12 件(12%)となっています。どのサブタイプ(亜型)のウイルスも継続的に分離されていますので、耐性株の関係もあり、今後の動向に注意する必要があります。

病原体定点の検体からの AH1(ソ連型)分離株は、遺伝子解析を行った 20 件すべてにオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示唆する遺伝子変異が認められました(オセルタミビル処方前に検体採取)が、ザナミビル(商品名:リレンザ)、アマンタジン(商品名:シンメトレル等)耐性を示唆する遺伝子変異が認められませんでした。

また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った 10 件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められましたが、オセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められませんでした。

B 型分離株に対して薬剤耐性に関する遺伝子解析は行っていません。

集団かぜの検体に関しては、AH1(ソ連型)の分離が 7 株、PCR での検出が 17 株で、AH3(香港型)の分離が 1 株、PCR での検出が 1 株でした。また、B 型の分離が 5 株、PCR での検出が 1 株でした。

亜型	調査方法	分離ウイルス株数	薬剤耐性検査数	オセルタミビル耐性遺伝子検出数	アマンタジン耐性遺伝子検出数
AH1(ソ連型)	病原体定点	30	20	20(100%)	0
	集団かぜ	7	2	2(100%)	0
AH3(香港型)	病原体定点	14	10	0(0%)	10(100%)
	集団かぜ	1	-	-	-

(1) 今シーズンの病原体定点の検体からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

月集計および週数	インフルエンザ検出状況					
	A 型				B 型	
	H1(ソ連型)		H3(香港型)		分離	PCR*
	分離	PCR*	分離	PCR*		
2008 年第 47 週～第 52 週(11/17～12/28)	10	-	6**	10	7**	-
2009 年第 2 週(1/5～1/11)	6	2	3	-	-	-
第 3 週(1/12～1/18)	5	2	1	1	2	-
第 4 週(1/19～1/25)	7	5	3	-	-	-
第 5 週(1/26～2/1)	2	7	1	2	1	-

*: ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

** : うち 1 件は、1 人の検体から AH3(香港型)と B 型の両方が分離されました。

(2) 今シーズンの学校等における集団かぜからのウイルス分離・検出状況

検体採取週	区数	施設数	検体数	インフルエンザウイルス検出数					
				分離			PCR		
				AH1	AH3	B	AH1	AH3	B
2008 年第 49 週(12/1～12/7)	1	1 幼稚園	3				3		
2008 年第 51 週(12/15～12/21)	1	1 中学校	5			4			1
2009 年第 4 週(1/19～1/25)	9	2 幼稚園	8	4			4		
		5 小学校	19	2		1	10		
		1 中学校	1					1	
		1 高等学校	1						1
2009 年第 5 週(1/26～2/1)	3	2 小学校	7	1	1		3		
		1 中学校	1						
2009 年第 6 週(2/2～2/8)	1	1 小学校	1				1		

国立感染症研究所の病原微生物検出情報によれば、2009 年 2 月 6 日現在、全国の地方衛生研究所のインフルエンザウイルス分離・検出状況は、AH1(ソ連型)888 例、AH3(香港型)607 例、B 型 224 例です。

詳しくは、<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data1j.pdf> をご覧ください。

(参考)

厚生労働省:インフルエンザ Q&A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/07qa.html>

国立感染症情報センター:インフルエンザ Q&A(一般向け)

<http://idsc.nih.gov/jp/disease/influenza/fluQA/QAgen01.html>

横浜市健康福祉局 健康安全課 (TEL:671-2463)
 横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (TEL:754-9816)
 検査研究課ウイルス担当 (TEL:754-9804)